

第39回 栃木県ストーマ研究会

会期 2024年 6月 8日(土)

会場 ライトキューブ宇都宮

〒321-0969 宇都宮市 宮みらい 1-20

開演 13:00

NEW CITY, NEW CHALLENGE.



写真：土田 桂子

特別講演 テーマ「排尿障害について」 講師：西原 大策先生

一般演題募集期間 令和6年3月1日～令和6年4月26日

＜栃木県ストーマ研究会当番世話人事務局＞

JCHO うつのみや病院 看護部 丸山和子

住所：〒321-0143

栃木県宇都宮市南高砂町 11-17

TEL：028-653-1001（代）

E-mail：kazuko-12@outlook.jp

＜運営事務局・演題応募先＞

独立行政法人国立病院機構 宇都宮病院

看護部 土田桂子

住所：〒329-1193 栃木県宇都宮市下岡本町 2160

TEL：028-673-2111（代）

E-mail：tsuchida.keiko.th@mail.hosp.go.jp

第39回
栃木県ストーリーマ研究会
プログラム・抄録集

日時：令和6年6月8日（土）13:00～

会場：ライトキューブ宇都宮
小会議室 105 106 107 108

当番世話人：独立行政法人 国立病院機構宇都宮病院

土田 桂子

会場のご案内

【開催日時】 令和6年6月8日 土曜日 12時30分より受付
13時開演

【会場】 ライトキューブ宇都宮 〒321-0969 宇都宮市 宮みらい1-20

【連絡先】 ライトキューブ宇都宮 028-611-5522

- ・メイン会場 ライトキューブ宇都宮1階 小会議室 105、106
- ・企業展示 ライトキューブ宇都宮1階 小会議室 107、108
- ・幹事会 ライトキューブ宇都宮1階 小会議室 107 12時から

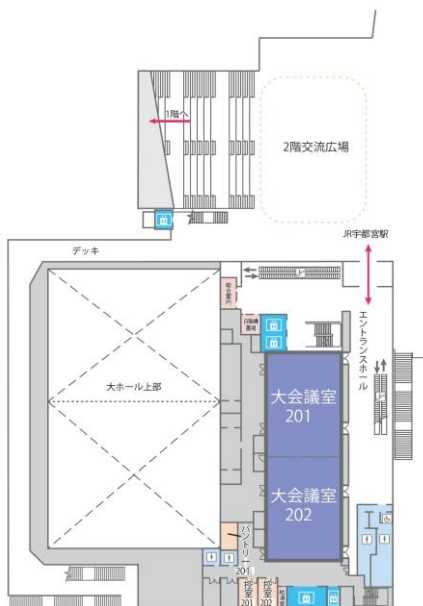
【ライトキューブ 宇都宮】

宇都宮駅東口より



【ライトキューブ2階】

東口エントランスを入り、正面のエスカレーターで1階まで降ります。



【ライトキューブ1階 小会議室 105-108】

駐車場、ヨークベニマル、エレベーターから大ホールを通過し自動扉を2か所越えた先、左手の小会議室になります。



【お手洗い】 1階 小会議室ホール内のほか、大ホール前にもございます。

【会場でのご注意】

- 1 会場では感染予防対策の観点から、マスク着用をお願いいたします。
- 2 持ち込みのお食事はご遠慮ください。ペットボトルでの飲水は可能です。
- 3 受付開始は **12時30分**になります。時間前の入室はできませんのでご了承ください。
- 4 駐車場は有料の駐車場になります。公共の交通機関のご利用をおすすめいたします。

参加者ならびに演者の方々へのご案内

I. 栃木県ストーマ研究会参加者のみなさまへ

1. 参加受付

場所：ライトキューブ宇都宮 1階 小会議室 105、106

時間：令和6年6月8日（土） 受付12：30～

当日参加費 一人 1,000円

2. 抄録集

会場でファイリングされた印刷物は配布がございます。

QRコードでダウンロードをお願いします。

3. 会場での飲食

会議室内での食事は、原則禁止とさせていただきます。配布された菓子・ペットボトルほか、持参した飲み物は結構です。ごみは分別して回収いたしますのでご協力お願いいたします。

4. 企業展示

企業展示を開催いたします。

企業展示 ライトキューブ宇都宮 1階 小会議室 107、108

12：00～15：30

5. 写真撮影

栃木県ストーマ研究会誌に掲載するための写真を撮影させていただく場合がございます。個人情報に配慮し、研究会誌等に掲載させていただく場合もありますので、ご了承ください。

II. 発表者の方へ

ご発表は、すべて口演となります。

1. スライド受付

場所：ライトキューブ宇都宮 小会議 105

受付時間：12：30

- ・時間厳守で受付を済ませてください

2. 発表について

- ・一般演題は、発表5分、質疑応答2分です。
- ・発表データはUSBフラッシュメモリー等でお持ちください。
- ・会場に用意しているPCは、Windowsのみとなります。ご注意ください。

3. 研究会誌への投稿について

- ・発表演題は、ストーマ研究会会誌に掲載させていただきたいと考えております。研究会誌への投稿の詳細は当日お知らせいたします。是非、ご協力をお願いいたします。

Ⅲ. 座長の方へ

- ・セッション開始 10 分前までに会場へお越しください。
- ・各セッションの進行は司会・座長に一任いたしますが、終了時刻は厳守してください。

Ⅳ. 討議・質問・発言

司会・座長の指示に従い、所属・氏名を述べてから発言してください。

Ⅴ. 栃木県ストーマ研究会入会

1. 演者ならびに共同演者の方は、本研究会会員であることを要します。未入会の方は、至急事務局にて入会手続きをお取りください。
2. 研究会当日に入会を希望される方は、受付で手続きをお済ませください。

〈第 39 回栃木県ストーマ研究会事務局代表〉
JCHO うつのみや病院 看護部 丸山和子
住所：〒321-0143
栃木県宇都宮市南高砂町 11-17
TEL：028-653-1001（代）
E-mail：kazuko-12@outlook.jp

プログラム

13:00~13:05 会場案内/オリエンテーション
開会の辞

13:05~13:45 一般演題

座長：国立病院機構宇都宮病院 青山 聡子

1. 整形外科における弾性ストッキングによるMDRPU予防ケアの教育的取り組み

国立病院機構宇都宮病院 看護部
宮澤 恵美 (みやさわ めぐみ)
阿久津 友紀乃 土田 桂子

2. 長期入所中の重症心身障がい児(者)におけるPEGケアの評価と継続への取り組み

国立病院機構宇都宮病院 看護部
小松由紀 (こまつ ゆき)
宮本真未 長江裕乃 土田桂子

3. 回腸導管造設術後ストーマケアトラブルを生じた患者との関わりからの一考察

那須赤十字病院 5東病棟¹⁾ 看護部²⁾
小筆淳智¹⁾ (こふで あつのり)
内田夕紀¹⁾ 川上小百合²⁾

4. 緩和ストーマ造設後、管理困難に至ったストーマケアを振り返る

那須赤十字病院 7階西病棟¹⁾ 看護部²⁾
前野 美寿々¹⁾ (まえの みすず)
川上 小百合²⁾

5. 人工肛門造設患者の手技獲得による退院延期0件を目指して

自治医科大学附属病院 新館5階B病棟
下川 晏南 (しもかわ あんな)

13:45~14:00 <<休憩 企業展示>>

14:00~15:00

特別講演 1

座長：国立病院機構宇都宮病院 増田 典弘

『見直そう 排尿の知識』

講師：独立行政法人 国立病院機構宇都宮病院
西原 大策 先生

15:00~15:20 <<休憩 企業展示>>

15:20~15:50

特別講演 2

座長：国立病院機構宇都宮病院 小池 由美

『排尿自立支援』

講師：足利赤十字病院
皮膚・排泄ケア認定看護師 奈良部 真由美 先生

15:50~16:00

閉会の辞

当番世話人 土田 桂子

抄 録 集

演題 1 整形外科における弾性ストッキングによる MDRPU 予防ケアの教育的取り組み

国立病院機構宇都宮病院 看護部
宮澤 恵美 (みやさわ めぐみ)
阿久津 友紀乃 土田 桂子

【 目的 】

当病棟は整形外科を中心とした病棟で、下肢や脊椎の手術を年間約 370 件実施されている。人工関節置換術や大腿骨骨折の手術であるほか、それらの手術を受ける多くの患者は高齢者であり、予期せぬ合併症や離床の遅れなどから、DVT の発生リスクが高い状況にある。DVT 発生のリスクを低減するため、弾性ストッキングを着用している。しかし加齢や薬剤による皮膚の脆弱化や筋肉・皮下組織の低下による骨突出があるため、弾性ストッキングによる MDRPU が発生していた。そこで弾性ストッキングによる MDRPU の発生原因を調査し、その結果をもとに教育的な取り組みを実施したので報告する。

【 方法 】

- 1) 病棟スタッフへのアンケート調査
- 2) 弾性ストッキングに関する勉強会の実施
- 3) 弾性ストッキング使用中のチェックリスト作成と活用

【 倫理的配慮 】

個人のプライバシーを尊重し、個人が特定されないよう配慮した。

【 結果 】

- 1) アンケートの結果：弾性ストッキング装着中の観察や予防の不足、MDRPU の発生しやすい部位の知識不足、MDRPU 予防ケアの必要性の認識不足と被覆材の知識不足があった。
- 2) 勉強会：弾性ストッキングの適切な使用方法と MDRPU の予防ケアについて勉強会を実施。勉強会実施前と後に同内容のアンケートを実施し、すべての項目で「はい」（＝予防ケアを行えている）の回答が増加した。
- 3) チェックリストによる観察の実施：内容は弾性ストッキングの正しい装着や皮膚状態の観察に関する項目 8 項目。床上安静者は 1 日 1 回、ADL 自立者は入浴日に実施。

【 考察 】

今回、アンケート調査によるスタッフのケアの傾向を知り、チェックリストの運用により、弾性ストッキング使用患者の MDRPU の発生を 0 件にすることが出来た。必要性の理解を高めたことで、個人が確実に観察を実施し、チェックリストを用いたことで習慣化させることが出来たと考える。

【 まとめ 】

術後安静時や、寝たきりの患者における弾性ストッキング使用時の観察や予防ケアに対する教育は新人教育においても活用し、スタッフ全体で習慣化できるように働きかけていきたい。また、弾性ストッキングによる MDRPU の予防において、簡便でコストパフォーマンスに優れた被覆材と使用方法についても研究していきたい。

【 引用・参考文献 】

- 1) 日本褥瘡学会,ベストプラクティス医療関連機器圧迫創傷の予防と管理
- 2) 日本皮膚科学会,創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン,2023
- 3) 伊藤正明ほか:肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症の診断、治療、予防に関するガイドライン, 2017

演題 2 長期入所中の重症心身障がい児(者)におけるPEGケアの評価と継続への取り組み

国立病院機構宇都宮病院 看護部

小松由紀 (こまつ ゆき)

宮本真未 長江裕乃 土田桂子

【 目的 】

当病棟には重症心身障がい児(者)の方が50名ほど入所されている。療養型のため、古くは49年前から在籍されており、最高齢は64歳で、5割が40歳以上となっている。近年の医療の発展やケアの改善に伴い、当院の重症心身障がい児(者)の生存期間も延びている。当病棟でPEG造設状態にある利用者は4割近くになるが、ほとんどの入所者が側弯や筋緊張など、身体に変化がみられるにもかかわらず、同じPEGケアが継続されている。そこでPEG造設患者の継続的な観察とケアの評価ができないかと考え、取り組みを行ったので報告する。

【 方法 】

- 1) PEG造設患者の現状の把握
- 2) PEGケアの方法についてアンケート調査
- 3) PEGケアに関する勉強会の実施
- 4) 個別にPEGのケア状況と皮膚状態の経過を管理

【 倫理的配慮 】

プライバシーを尊重し、個人が特定されないよう配慮した。

【 結果 】

- 1) PEGケアをスコア化して評価：PEGカテーテルの種類とサイズ、皮膚の状態をスコア評価
- 2) PEGケアに関するアンケート調査：PEGに関する知識、ケアの実際、観察している内容
- 3) 勉強会：アンケートの結果を踏まえ実施。PEGの種類、観察項目、皮膚トラブル時の対策等を説明
- 4) PEGケア経過の管理：スコアシートで統一した評価をしてファイル保管、写真の撮影、評価やケア方法の共有と統一のため、カンファレンスを実施して記録した。

【 考察 】

今回、アンケート調査や勉強会のほか、スコアシートを活用したことで、PEGケアに関する意識の向上が図れた。また、そのことによって入浴日以外のPEGケアの実施率の向上や、経過ファイルに残すためのカンファレンスを定期的に変更するようになり、結果的に患者のケアの評価と見直しができるようになった。

【 まとめ 】

入所者の入れ替わりよりも、看護師の異動サイクルの方が短いため、患者の経過やケアの引継ぎを確実に行っていくことは重要な課題であるといえる。今後は、経口から食事を摂取できる期間を長くすることで、入所者のQOLが維持されるよう摂食嚥下リハビリテーションや食形態に対しても検討していきたい。

【 引用・参考文献 】

- 1) 岡田晋吾：PEG（胃瘻）ケアの最新技術,2010,
- 2) 曹秀樹:小児の経皮内視鏡的胃瘻造設術,静脈経腸栄養,Vol27,No5,2012

演題 3 回腸導管造設術後ストーマケアトラブルを生じた患者との関わりからの一考察

那須赤十字病院 5 東病棟¹⁾ 看護部²⁾

小筆淳智¹⁾ (こふで あつのり)

内田夕紀¹⁾ 川上小百合²⁾

【 目的 】

退院前日に尿の潜り込みによる漏れが生じたが、患者及び家族の希望でストーマ装具が確定しないまま退院した。その結果、ストーマケアトラブルが継続し、患者の苦痛と QOL の低下を招いた。今回事例を振り返り、ストーマケアにおけるスタッフ教育と退院指導の重要性を再認識したので報告する。

【 方法 】

事例紹介：70 歳代男性 膀胱癌にて回腸導管造設となる。ストーマケアの実際を看護記録から振り返る。

【倫理的配慮】

個人情報保護を厳守し、患者個人が特定されないよう配慮した。

【 結果 】

術後 10 日目

患者へケア指導中、面板ストーマ孔のホールカットが難しいと意見があり、既成孔のストーマ装具へ変更する。

術後 17 日目

ADL 拡大に伴い、退院前日より尿の潜り込みによる漏れが頻回となる。患者及び家族と話し合いの結果、面板ストーマ孔のホールカットが必要だが、以前使用していた軟性凸面型面板ストーマ装具へ戻し退院となる。

術後 43 日目（初回ストーマ外来）

頻回な尿漏れがありストーマ装具を毎日交換していたため、3 時と 9 時方向の皺に対し用手成形皮膚保護剤を使用する。

術後 71 日目（2 回目ストーマ外来）

尿漏れの持続とストーマ袋不織布の刺激により接触性皮膚炎を生じる。面板が楕円形である軟性凸面型面板ストーマ装具へ変更する。

術後 169 日目（4 回目ストーマ外来）

皮膚障害は改善傾向であり、4 日毎のストーマ装具交換で管理できている。

【 考察 】

術後、ADL 拡大に伴い尿漏れが生じていた。病棟スタッフ間で情報共有を行っていたが、スタッフの経験値によってアセスメントに差があり、腹壁の状態や漏れの原因等を考慮したケアが行なえず同じケアを実施することで、漏れの継続に繋がっている。また、患者及び家族からの強い退院希望があり、ストーマ装具が確定していない状態での退院となった。退院時にストーマ外来の初回予約について説明したが、トラブル発生時の対処法として予約を待たずに泌尿器科外来へ電話相談することについて説明されておらず、外来への情報共有を行なわなかったため、対応が遅れ皮膚障害の悪化に繋がったと考える。

【 まとめ 】

オストメイトの QOL 維持のためには『漏れない、臭わない、かぶれないケア』が必要である。そのため患者の個別性を把握し、問題点を明確にし、改善策を見出せるようなスタッフ教育が必要である。また、退院後のトラブル発生時に備え、退院指導の見直しと他職種との連携を密にしていきたい。

演題 4 緩和ストーマ造設後、管理困難に至ったストーマケアを振り返る

那須赤十字病院 7階西病棟¹⁾ 看護部²⁾
前野 美寿々¹⁾ (まえの みすず)
川上 小百合²⁾

【 目的 】

終末期患者は、放射線治療や抗がん剤治療による皮膚障害、栄養障害に伴う痩せ、腹膜播種や腸閉塞等による腹部膨満を併発し全身状態不良となる事が多く、ストーマ造設後に巨大ストーマ、陥凹型ストーマ、粘膜皮膚接合部離開等の合併症が起こりやすい特徴がある。今回、管理困難ストーマケアを通して、チーム医療の重要性を再認識したので報告する。

【 方法 】

事例紹介：60代男性 直腸癌術後再発 多発転移

疼痛コントロール目的にて入院。放射線治療中、腸閉塞併発し横行結腸双孔式ストーマ造設となる。ストーマケアの実際を看護記録から振り返る。

【 倫理的配慮 】

家族へ趣旨を説明し口頭で同意を得た。当院臨床研究審査委員会の承認を得た。

【 結果 】

術後5～8日目

粘膜皮膚接合部が全周離解(6時方向に手術創あり、離開拡大傾向)していた。医師が診察後、離解部分に粉状皮膚保護剤を充填し経過観察となった。

術後14日目

6時方向に3.5cmのポケット創を認めた。主治医、皮膚・排泄ケア認定看護師とケア方法を検討し感染制御と創傷治癒促進を目的として創傷被覆材を使用した。病棟で担当するチームの看護師に装具交換の見学を促し、装具交換の際は立ち会いの下指導した。更に、カンファレンスやカルテを有効活用し、情報共有とケアの統一に努めた。洗浄と観察目的で短期交換型装具を使用し1日毎交換とした。

術後18日目

6時方向離解部の過剰浸出液により面板の溶解が生じた。浸出液吸収と面板粘着性の強化、近接部保護のため用手成形皮膚保護剤を併用した。

術後34日目

創部の肉芽増殖傾向に伴いポケットサイズは縮小し、徐々に創傷被覆材の使用量を調整しケアを継続した。

術後42日目

退院診察時、6時方向ポケット創は治癒を認め創傷被覆材の使用を終了した。

【 考察 】

村田氏は「チーム医療において、情報の共有は患者への介入をよりよいものにしていくための前提条件となる。」と述べている。チーム内で情報共有ができた事で、ケア介入に消極的な看護師も徐々に他の看護師へ装具交換方法を伝達し、目に見えて創部の状態が良くなる事で「やって良かった。」と発言する看護師が増えた。今回の成功体験が個人の成長やチームの実践力へ繋がり、患者へのサービス向上に関与できたと考える。

【 まとめ 】

ストーマケアは一人で行うものではなくチームで行うものである。統一したケアを提供できるようチーム間での情報共有と医師の協力が必要である。

演題 5 人工肛門造設患者の手技獲得による退院延期 0 件を目指して

自治医科大学附属病院 新館 5 階 B 病棟
下川 晏南（しもかわ あんな）

【 目的 】

ストーマを造設した患者は入院中にストーマ装具交換の手技を獲得する必要がある。ストーマ造設患者の入院が長期化する原因の 1 つに装具交換の手技獲得の遅れがある。畠山¹⁾らは入院期間の短縮化に伴い装具交換指導について、看護師は装具交換に対する専門的知識を持って早期から計画的に関わり、患者個々への責任を果たすための体制づくりの重要性を示唆している。経験年数に関わらず同等の知識や技術が求められるのである。昨年度のストーマ造設患者のうち、ストーマ装具交換指導回数の約 30%は経験年数の浅い 1 年目の看護師が担当していた。患者が手技を獲得できるためには、全ての看護師が統一した指導を行うことが重要である。そこで、患者が早期に手技獲得ができ退院を目指すことができるよう、新人看護師の指導を援助しようと考えた。

【 方法 】

1. 対象患者の入院日数の統計と分析
2. 対象患者へ「ストーマ装具交換予定表」を用いて指導を実施
3. 事例の振り返りと対策の実施
4. 1 年目看護師へアンケートを実施

【 倫理的配慮 】

患者の分析や看護師へのアンケート実施の際に、個人が特定できないよう配慮した。

【 結果 】

- ・新人ストーマ手技チェックリストを活用し自立した新人看護師：6 人中 5 人
- ・アンケートの結果・評価
新人ストーマ手技チェックリストを活用することで不安が減った：6 人（100%）、
活用してよかった：6 人（100%）
- ・対象患者の入院日数の結果：対象患者 5 人、手技獲得による退院延期 0 件

【 考察 】

事例の振り返りで対策を行ったことで、新人看護師はストーマ交換を自立して行うことができ不安が軽減した。新人看護師が統一した手技を獲得できたことで、患者の早期の手技獲得につながった。

先行研究でも早期からの計画的な関わりが重要であると述べているように、装具交換予定表を使用して指導すすめることで患者も予定を把握し、交換に参加しやすい状況であったと考える。

【 まとめ 】

手技獲得の遅れによる退院延期は 0 件であった。今後も手技獲得による退院延期を増やさないために、スタッフが統一した指導を行っていくことを継続していく。

【 引用文献 】

- 1) 畠山義子、登坂有子、浦野理香：在宅日数短縮化のストーマリハビリテーションへの影響。日本ストーマリハビリテーション学会誌。2004.20(1).45 - 50.

特 別 講 演

泌尿器科 西原 大策 先生

【ご略歴】

- 2009年 獨協医科大学医学部卒業
獨協医科大学初期研修医
- 2011年 獨協医科大学泌尿器科 レジデント
- 2013年 神戸市立医療センター中央市民病院泌尿器科
- 2014年 獨協医科大学泌尿器科 助教
- 2015年 友愛記念病院泌尿器科
- 2019年 獨協医科大学大学院医学研究科入学
- 2023年 獨協医科大学大学院医学研究科修了
- 2023年 国立病院機構宇都宮病院泌尿器科医長

【資格】

獨協医科大学泌尿器科
日本泌尿器科学会専門医指導医

【勤務先】

独立行政法人 国立病院機構宇都宮病院勤務

【診療について】

勤務先の国立病院機構宇都宮病院では、下記の診療を中心に行っておられます。

(一部、国立病院機構宇都宮病院 HP より引用)

● 頻尿（前立腺肥大症、過活動膀胱など）

頻尿には、前立腺肥大症などにより尿路閉塞があり、1回排尿量が減ることで残尿が生じて排尿回数が増加するものと、膀胱平滑筋の異常収縮のため尿意切迫感があり排尿回数が増加する過活動膀胱があります。まず、残尿がないかを確認することが重要で、残尿測定は導尿か超音波機器による測定を行います。当院では最新の超音波残尿測定器を用いることで、視覚的に正確な残尿を測定して診断を行い、適切な治療薬の選択に役立てています。

- **前立腺癌**

早期発見すれば予後の良い癌であり、限局癌における5年相対生存率は100%です。前立腺癌の腫瘍マーカーであるPSAが高値の場合、前立腺癌を念頭に精査が必要です。前立腺癌の診断では、直腸診およびMRIを行い前立腺に腫瘍があるかを確認します。腫瘍を認めて癌を疑った場合は、経直腸的超音波法により位置や大きさを確認しながら前立腺針生検を行います。当院では、最新の超音波検査機器および3テスラMRIを用いて検査を行います。前立腺癌と判明した場合、治療は手術療法、放射線治療、ホルモン療法の3本柱です。状態、病期に合わせ、最善の治療方法を提案させていただきます。

- **尿路結石**

食の欧米化や生活習慣病を背景にわが国でも罹患率は年々増加しています。再発率も高く約半数が再発します。数mmの結石であれば自然排石も期待できますが、1cmを超える大きさになると自然排石は難しくなってきます。当院では最新のホルミニウムヤグレーザーを導入し経尿道的尿路結石破碎術(TUL)だけでなく、大きな腎結石に対しては経皮的尿路結石破碎術(PNL)、これらを組み合わせたECIRSにも対応しています。

特別講演 2 講師紹介

奈良部 真由美 先生

【勤務先】

足利赤十字病院

皮膚・排泄ケア認定看護師

栃木県ストーマ研究会 歴代世話人

回	世話人	所属	会場	期日
1	小山 靖夫	栃木県立がんセンター	本館講堂	1994.2.19
2	門脇 淳	獨協医科大学病院	大会議室	1994.9.17
3・4	小西 文雄	自治医科大学	研修センター	1995.6.17, 12.16
5・6	植松 繁人	済生会宇都宮病院	グリーンホール	1996.6.15, 12.14
7・8	中藺 昌明	栃木県立がんセンター	本館講堂	1997.6.14, 12.6
9・10	藤原 利男	獨協医科大学	臨床研究棟講堂	1998.6.20, 12.19
11・12	小林 裕	自治医科大学	研修センター	1999.6.12, 12.11
13・14	湯沢 いり子	栃木県立がんセンター	本館講堂	2000.6.17, 12.9
15・16	荻野 佳紀	獨協医科大学	臨床研究棟講堂	2001.6.9, 12.15
17・18	福島 安子	自治医科大学	研修センター	2002.6.22, 12.14
19・20	石川 美知子	獨協医科大学	臨床研究棟講堂	2003.6.14, 12.6
21	小川 洋子	宇都宮社会保険病院	老健サンビュー	2004.6.12
22	門脇 淳	佐野市民病院	研修室	2005.6.11
23	太田 信子	自治医科大学附属病院	12 階会議室	2006.6.10
24	永田 仁	獨協医科大学	関湊記念ホール	2007.6.2
25	矢口 美奈子	獨協医科大学日光医療センター	6 階会議室	2008.6.28
26	遠藤 富美	NHO 栃木病院	講堂	2009.5.23
27	別府 薫	足利赤十字病院	糸杉ホール	2010.7.10
28	山形 眞由美	済生会宇都宮病院	グリーンホール	2011.6.25
29	中澤 貴代	芳賀赤十字病院	スパリゾート Fuji	2012.6.30
30	川上 小百合	那須赤十字病院	マイタウンホール	2013.6.15
31	山口 悟	獨協医科大学	関湊ホール	2014.6.21
32	池田 篤	佐野厚生総合病院	多目的ホール	2015.6.20
33	中留 裕子	上都賀総合病院	スカイホール	2016.6.4
34	民上 英俊	黒須病院	第 1・2 会議室	2017.6.24
35	小林 雅世	とちぎメディカルセンターしもつが	講堂	2018.6.30
36	松本 貴司	菅間記念病院	大会議室	2019.6.29
37	小澤 平太	栃木県立がんセンター (web)	栃木県立がんセンター	2022.6.10
38	小澤 平太	栃木県立がんセンター	ライトキューブ宇都宮	2023.6.17
39	土田 桂子	NHO 宇都宮病院	ライトキューブ宇都宮	2024.6.8

第39回栃木県ストーマ研究会

展示企業一覧（敬称略）

アルケア株式会社

あらいメディカル

イソメディカルシステムズ

栗原医療器械店

ケープ

コロプラスト

コンバテック

スミス&ネフュー

スリーエムヘルスジャパン合同会社

ダンサック

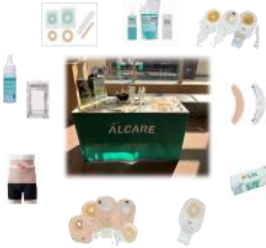
ホリスター

本研究会の開催にあたり、企業展示にご協力・ご支援いただき誠にありがとうございます。

つなぐ手あて、ひらくケア。

**アルケア株式会社
展示内容**

< 展示員 >



栃木県営業担当
中島 彰宏



首都圏第2G
エリアマネージャー
新井 龍

この度は栃木県ストーマリハビリテーション研究会の展示にご参加させて頂きましてありがとうございます。
普段は営業担当の中島が皆様の病院をご訪問させて頂いております。アルケアはストーマ業界唯一の国産メーカーで、ストーマ器具はもちろんのことオストメイトの生活支援メーカーとして様々なアクセサリを取り扱っております。
また、オストメイトへ向けて情報誌向日葵を発行したり、ストーマ器具工場見学・温泉入浴体験会を企画しております。



**日本製商品のアルケアフースへぜひとも
お立ち寄りください！！**

新商品 ウレタンフォームマットレス展示



本日は、リバーシブルタイプのウレタンフォームマットレスを展示しております。ブースにて、両サイドの素材の違いを是非ご体感くださいませ。



ストーマ袋をぽっけに収納することで
袋と皮膚が密着する不快感を取り除きます

ぽっけ パウチカバー

BEFORE **AFTER**

ケースを付けたまま
ストーマの交換も
確認できずす！

この商品を作製した
皮膚・排泄ケア認定看護師と
患者さまの思い

ストーマケアを行う中で、患者さまからストーマが剥がれ
などにあたって「汗をかいた時などにストーマが
皮膚に粘ると不快感がある」とのお声を多く伺いました。
そこで、患者さまと一緒に考えたお声を多く伺いました。
「ぽっけパウチカバー」を作製しました。
このパウチカバーを使用しなくても粘り残ったまま、
ストーマ袋の不快感が少しでも軽減される幸いです。

商品番号	規格	カラー	単位 (個)
OR101	イレオストミー/ウロストミー用 ストーマ器具 標準 幅280mm×縦170mm	黒	990円
OR102	コロストミー用 ストーマ器具 標準 幅220mm×縦170mm	黒	990円

■販売代理店

For You 東洋医療器販売
株式会社 東洋医療器販売
〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-1-1
TEL: 03-5561-5411

株式会社 MEMO
〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-1-1
TEL: 03-294-295

当社オリジナルの
ケア商品カタログ

あらい
メディカル
ARAIMEDICAL

デコパウチ

当社発行の
ストーマ情報誌
「くろーぱー」

展示ブースにて
お待ちしております！

あらいメディカル
ARAIMEDICAL

■宇都宮オフィス
〒321-0952 栃木県宇都宮市泉が丘 3-1-10
サカヨリビル 1F
☎028-678-2900

公式キャラクター
ストーマくん

《運営協力》

独立行政法人 国立病院機構宇都宮病院

院長	杉山 公美弥
副院長	増田 典弘
事務部長	鈴木 康人
看護部長	金沢 えみ子
副看護部	石井 優子
企画課長	石澤 英夫
管理課長	村上 功

事務部の皆様

リハビリテーション科の皆様

看護師長会の皆様

褥瘡委員会の皆様

褥瘡リンクナース部会の師長はじめリンクナースの皆様

JCHO うつのみや 丸山 和子 様

皆様のご協力に深く感謝いたします。

第39回栃木県ストーマ研究会
プログラム・抄録集

当番世話人 土田 桂子（独立行政法人 国立病院機構宇都宮病院 看護部）

〒329-1193
栃木県宇都宮市下岡本町 2160
TEL：028-673-2111
